

ミカン生育情報

千葉県
平成29年1月号

平成28年のまとめ

平成28年の気象

平成28年の気象を表1に示した。月別の平均気温は7月及び11月を除き、平年を上回った。2、4、9、12月では平年より1℃以上高かったが、11月は1.4℃低かった。年平均気温は16.1℃で平年より0.5℃、前年より0.3℃高かった。気象庁の発表によると、東日本の年平均気温は、2004年と並び統計開始以来の1位タイを記録した。

月別の降水量は、平年に比べ4、6、8、11、12月で多かった。特に8月は台風の影響もあり平年の171%の降水量であった。他の月では平年並みか少なく、特に10月は平年の33%と非常に少なかった。年間の降水量は1907mmで平年の95%であった。梅雨入りは6月5日頃、梅雨明けは7月29日頃であった。梅雨入りは平年より3日早く、梅雨明けは平年よりも8日遅かった。6月まで台風の発生がなかったが、その後は多く発生し平年並みの発生数になった。8月には台風が4つ日本に上陸し、北日本に大きな被害が発生した。

月別の日照時間は、平年に比べ1、5、6、7、12月で多く、その他の月では平年を下回った。5月は平年の123%の日照時間で、4、8、9月は平年の70%台の日照時間だった。年間の日照時間は1845時間で平年の95%であった。

表1 平成28年の気象（暖地園芸研究所）

月	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	6.6	5.9	6.0	58	88	120	184	170	131
2	7.7	6.4	6.4	99	102	89	150	152	167
3	9.8	9.4	10.3	165	184	195	149	157	199
4	15.4	13.9	13.8	198	172	167	126	172	130
5	18.6	17.8	18.9	142	179	74	218	177	179
6	21.0	20.8	20.4	273	246	229	137	133	134
7	24.0	24.4	24.5	114	173	297	182	169	208
8	26.0	25.9	25.7	232	136	180	169	217	197
9	24.0	22.9	22.0	239	239	449	104	145	129
10	18.9	18.0	17.9	86	258	93	118	137	185
11	11.9	13.3	14.2	186	144	237	122	145	125
12	9.6	8.5	10.1	119	94	102	188	165	147
合計/平均	16.1	15.6	15.8	1907	2015	2229	1845	1939	1930

病害虫、生理障害の発生

平成28年の果樹カメムシ類の発生は平成27年よりも多かったが、平成26年よりは少なかった。園の立地条件によっては加害が見られた。暖地園芸研究所内では、林縁に近い温州ミカンで加害が見られた。

黒点病や果実腐敗の発生は少ない傾向であった。ミカンハダニの発生は多い傾向であった。葉の表面だけではなく、果実の表面も加害された。また、サビダニによる果実の加害が発生し、摘果で灰白色の被害果を取りきったものの、新たに加害されたと考えられる赤褐色の被害果が9月頃から樹冠外部に見られた。

生理障害としては、前年よりは発生程度が軽いものの、油胞の周りの果皮が窪み、その後、条件によっては変色する症状が発生した。これは、果皮の成熟期以降に、果面について水滴が乾きにくい園で発生しやすい。収穫時には目立たなくても、貯蔵中・出荷後に悪化することがある。また、本年は果実表面が汚い果実も目立った。

浮皮果の発生は平成27年よりも軽度であったが、取り遅れた果実には著しく発生した。

果実の生育

平成27年は表年であったため、平成28年の樹勢はやや悪かった。冬期に寒波があったが（日最低気温が1月25日に -3.9°C 、1月26日に -3.0°C ）、寒害による著しい落葉や枯れこみはなかった。暖地園芸研究所における平成28年の温州ミカンの発芽期は、早生温州が4月8日、普通温州は4月16日であり、早生温州は平年より2日早く、普通温州は平年より2日遅かった。開花期は、開花盛期で見ると、早生温州が5月8日、普通温州は5月13日で、平年より6日及び5日早かった。

3調査地（表2－注1）の収穫期の横径、縦径、一果重の平均値は早生温州、普通温州ともに平年以下であった。果実品質は、着色が早生温州ではやや遅れたが、普通温州は平年並みであった。糖度と酸度は平年より低かった。浮皮は、平成27年よりも発生程度が軽かった。

表2 平成28年の果実品質

種 類	横径(cm)		縦径(cm)		一果重(g)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
早生温州	6.5	6.5	4.9	5.1	111	115
普通温州	7.2	7.5	4.7	5.1	127	145

種 類	着色程度		糖度(%)		酸度(%)		甘味比		果肉歩合(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
早生温州	6.6	7.3	8.6	9.4	0.94	1.09	9.3	9.0	83.3	81.4
普通温州	8.1	8.0	9.4	9.9	0.89	0.93	10.6	10.8	76.7	75.0

注 1) 南房総市三芳地区、千倉地区及び暖地園研の3園地の平均値 2) 平年値は平成8～27年の平均値 3) 収穫日は早生温州：10月31日、普通温州：11月30日

1 月以降の栽培管理

土づくり・施肥

高品質のミカンを生産するため、定期的に土壌の物理性及び化学性を把握し、1～2月に堆肥等有機物及び3月下旬に春肥の施用を行う。

微量要素の欠乏・過剰で生じる生理障害が発生している樹に関しては、土壌のpH調整など適宜行う。カルシウム分が補給でき、土壌のpHを上昇させる石灰資材の施用は2月に行う。ただし、施用前には園地の土壌pHを測定し、適正量を把握する。

間伐・剪定・植え付け

剪定の前に、密植園では間伐を実施する。間伐することで、作業性の向上、高品質果実生産につながる樹形への整枝ができるようになる。間伐については、間伐の際に生じる減収程度、作業性の向上程度、受光態勢の改善による品質向上程度を鑑み、自分の園に合った方法を考える。

平成29年は着花量が多く、新梢の発生が少ない樹が多くなると予想される。着花が多いと予想される樹は、剪定は切り戻し剪定を中心に行い、新梢量を確保する。ただし、樹勢が強い品種・系統では間引き剪定中心にする。大きな樹形の改造を行う場合は、着花量や樹勢を考慮して行う。

改植などで苗木の植え付けをする場合、植え穴を準備し、厳冬期が過ぎた3月頃に植えつける。植え付け後はしっかりと添え木をし、風による倒伏や揺れを防ぐ。主枝候補の枝が伸長してきたら、枝に添え木をするなど大切に育成する。

病害虫の防除

剪定時には黒点病やそうか病、かいよう病の防除のため、枯れ枝や罹病枝葉を除去し、園外で処分し、園内の菌密度を下げる。そうか病の防除は発芽した芽が1cm程度に伸びた時期（4月中旬）及び落花直後（5月下旬）に薬剤防除を行う。かいよう病の防除は発芽前と5月中旬に行う。銅水和剤の散布は、農薬のラベルをよく読み、他の農薬との散布時期の調整を行う。

カイガラムシ類、ダニ類の防除のため、発芽前までにマシン油乳剤の散布を行う。主幹部分、枝、うろ、葉の裏までしっかりと散布する。ただし、樹勢の弱い樹への散布は避ける。また、厳冬期は落葉する危険があるため散布を避ける。

カタツムリ、ナメクジ類の発生を抑制するため、園内で潜伏場所となるような不要な石積みやシート類、木材等を除去する。園周辺の茂みからの侵入も考えられるため、園周辺部分の整理・清掃も行う。通風しが悪く、湿った園では発生しやすいため、排水溝の清掃を行い、水はけを良くする。

防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>